

人文学部地域連携委員会 外部評価報告書

平成 26 年 3 月

茨城大学人文学部

目 次

1	人文学部地域連携活動・外部評価会議の進行について……………	1
2	人文学部地域連携委員会活動報告概要（2008～2011年度）……………	2
3	地域連携委員会活動報告（2008年度～2011年度）……………	4
4	人文学部地域連携委員会・自己点検評価について……………	11
5	人文学部地域連携活動・外部評価委員の発言要旨……………	12
6	外部点検評価をふまえて……………	14

1 人文学部地域連携活動・外部評価会議の進行について

日 時：2013年7月5日（金）10：00～12：00

場 所：人文学部 A 棟 2 階 地域連携推進室（A205）

(1) 開会・資料確認（10：00～10：05）

(2) 学部長挨拶（10：05～10：10）

(3) 委員紹介（10：10～10：20）

外部評価委員

茨城県企画課副参事 浅野幸夫

常陽地域研究センター事務局長 出井滋信

認定 NPO いばらき NPO センター事務局長・常務理事 横田能洋

常磐大学コミュニティ振興学部長 松村直道

人文学部

学部長 伏見厚二郎

評議員・副学部長 澁谷浩一

地域連携委員長・副学部長 斎藤義則

事務長 宇野照雄

(4) 人文学部の地域連携活動報告（10：20～10：50）

(5) 外部評価委員の意見聴取（10：50～11：50）

(6) 閉会（11：50）

2 人文学部地域連携委員会活動報告概要（2008～2011年度）

(1) 目標

「茨城大学地域連携 21 世紀プラン」や連携協定に基づき、広く地域連携事業を進め、地域の活性化に寄与する。

(2) 運営体制 地域連携委員会（11名）

(3) 活動報告

項 目	対象・名称	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	備 考
まちづくり支援関連	常陸大宮市	西塩子回り舞台組み立て支援、他4件	豊島区との交流事業支援、他1件	『常陸大宮物語』出版、里山保全活動、他6件	農村集落活性化活動(5件)、サスガ★カミスガへの参加、WAC カフェ開設支援、他4件	
	大洗町	日本語教室	日本語教室	日本語教室、他2件		
	茨城町					2013.1.23 地 域 連 携協定締結
	常陸太田市					2013.7.24 協定締結(予定)
調 査・研 究・研究会		町民意向調査など3件	ライフスタイル研究、提案報告書	ライフスタイル研究会	ライフスタイル研究会、M地区空き	
講義・公開講座	地域連携論 I・II	155名が受講	158名が受講	130名が受講	175名が受講	
	常陸大宮市	総合科目	市民大学講座	総合科目、市民大学講座	市民大学講座	
	大洗町		集中講義、公開座談会	大学院演習、他1件	公開講座「世界の文化とくらし」	
シンポジウム	地域史シンポジウム	北関東の武士たち II・260名参加	よみがえる戦国の城・350名参加、他2件	どのような世界史研究・世界史教育をめざすか・142名参加	古代常陸の原像・194名参加	
	常陸大宮市	「これからのまちづくり」など	まちづくりシンポジウム、アクションミーティング	アクションミーティング	ネットワーク大会、アクションミーティング	
	大洗町		公開シンポジウム			

高校での模擬授業	常陸大宮市	小瀬高校				
	教員個人	(年報に記載)	(年報に記載)	(年報に記載)	(年報に記載)	
コンソーシアム	常磐大学			単位互換に向けた調整	2011.9.27 連携協定締結、連携授業	
	茨城キリスト教大学			単位互換に向けた調整	連携の可能性検討	○○○○○○○連携協定締結
	茨城県歴史館			いばらきの歴史と風土、歴史館公開講座に3コマ、2011.3.31 連携協定締結	いばらきの歴史と風土、歴史館公開講座に3コマ	
広報活動		HP 更新	HP 更新	HP 更新	HP の更新	
教員の個人活動		(大学 HP に記載)	(大学 HP に記載)	(大学 HP に記載)	(大学 HP に記載)	2013.10.1「市民共創教育研究センター」設置(予定)
その他						

3 地域連携委員会活動報告（2008 年度～ 2011 年度）

2008 年度

(1) 地域連携協定を締結している自治体における活動

常陸大宮市

- ①『常陸大宮市森を活かしたまちづくり提言書』（A4 版 62 頁）の策定
- ②市民大学講座の開講
 - ・「日本語」をテーマにした秋期講座
 - ・「法律」をテーマにした春期講座
- ③まちづくりシンポジュームの開催
 - ・「常陸大宮市のこれからのまちづくり『美しい山や川、ふるさとの魅力をいかして～御前山からの発信～』」
- ④小瀬高校における模擬授業の開講
- ⑤常陸大宮市を対象にした総合科目の開講
- ⑥まちづくり支援活動
 - ・オーストラリアからの高校生訪問団の通訳ボランティア（学生 7 名）
 - ・西塩子回り舞台の組み立てと公演へのボランティア参加
 - ・「常陸大宮アクションミーティング」における学生 5 組による活動・研究報告と 4 組の学生が中心商店街活性化プランを提案
 - ・夏の盆踊り大会で司会、会場運営、大道芸サークルのパフォーマンスを実施

大洗町

- ①日本語教室の開講
- ②『大洗町のまちづくりに関する町民意向調査』の実施
- ③「水辺環境の活用・整備・ウォーター・スポーツの振興策」プロジェクトの開設と調査・研究および研究発表会、公開座談会の実施
- ④『茨城大学の学生と海辺・水辺活動に関する集計結果報告』の策定

(2) 講義『地域連携論（働く意義・学ぶ意味）』Ⅰ、Ⅱの開講

- ①学生 155 名が受講（Ⅰ 65 名、Ⅱ 90 名）
- ②公開シンポジュームの開催（学生約 200 名が参加）
- ③公開模擬面接の実施
- ④ⅠⅡともシンポジューム・模擬面接を含む各 15 回の講義を通じて、30 名程度の学外講師および 10

名程度の教員が参加。なお、Ⅱは茨城県経営者協会の「ボランティア講座」。

⑤シンポと模擬面接は、人文学部と人文学部同窓会の主催、茨城県経営者協会の共催

(3) 地域史シンポジュームの開催

①「北関東の武士（もののふ）たちⅡ－みえてきた中世武士団の実像－」というテーマで基調講演、6本の報告、3名のコメンテーターによる議論（260名参加）

(4) 広報活動

①地域連携委員会のホームページ更新と公開

・『地域とともに 茨城大学人文学部地域連携の歩み 2004～2007年』の掲載

②『地域とともに 茨城大学人文学部地域連携の歩み 2004～2007年』の配布

2009年度

(1) 地域連携協定を締結している自治体における活動

常陸大宮市

①市民大学講座の開講

・「世界の名作を読み直す」をテーマにした秋期講座

・「川からみる歴史・文化・社会」をテーマにした春期講座

②豊島区との交流事業の受け入れボランティア

③まちづくりシンポジュームとアクションミーティングの開催

・アクションミーティングでは5組の学生グループが研究発表を行った。

・まちづくりシンポジュームでは複数の市民グループが協働で協議会を結成することを確認した。

④常陸大宮市を対象にした総合科目の開講、テーマ：「地域と大学－取り戻そう！地域の力と地域の自立」

⑤西塩子回り舞台の組み立てと公演へのボランティア参加

大洗町

①日本語教室の開講と住民・行政との交流バーベキューを実施した。

②総合計画策定への支援

③公開シンポジューム「海辺の町での暮らしと子育てを語るシンポジューム in 大洗」開催

③「水辺環境の活用・整備・ウォーター・スポーツの振興策」プロジェクトの開設と調査・研究および研究発表会、公開座談会の実施

④集中講義「海を活かしたまちづくり」の開講

⑤『大洗町における海を活かしたまちづくりに向けたライフスタイルの研究と『海辺・水辺』活動の

実践モデルの開発・提案報告書』の策定

(2) 講義『地域連携論（働く意義・学ぶ意味）』Ⅰ、Ⅱの開講

- ①学生 158 名が受講（Ⅰ 57 名、Ⅱ 103 名）
- ②公開シンポジウムの開催（学生約 200 名が参加）
- ③公開模擬面接の実施
- ④ⅠⅡともシンポジウム・模擬面接を含む各 15 回の講義を通じて、30 名程度の学外講師および 10 名程度の教員が参加。なお、Ⅱは茨城県経営者協会の「ボランティア講座」。
- ⑤シンポと模擬面接は、人文学部と人文学部同窓会の主催、茨城県経営者協会の共催

(3) 地域史シンポジウムの開催

- ①「よみがえる戦国の城」というテーマによる議論（350 名参加）
- ②常陸大宮市歴史民俗資料館で「館（タテ）と宿（シユク）の中世－常陸大宮の城跡とその周辺－」特別展を開催（来館者 1570 名）
- ③ヒストリーツアー「常陸大宮 戦国の城を歩く」（参加者 80 名）を実施

(4) 広報活動

- ①地域連携委員会のホームページの全面的リニューアル
・情報内容を最新のものに更新、デザインの更新

2010 年度

(1) 地域連携協定を締結している自治体における活動

常陸大宮市

- ①市民大学講座の開講
 - ・「龍馬の時代Ⅰ－同時代の世界をみる」（3 回シリーズ）をテーマにした秋期講座
 - ・「龍馬の時代Ⅱ」（3 回シリーズ）をテーマにした春期講座
- ②オーストラリアからのホームステイ受け入れ事業の通訳ボランティア
- ③連携事業の内容を知らせる壁新聞「ひたち Oh！宮」の作成
- ④常陸大宮市を対象にした総合科目の開講、テーマ：「市民によるまちづくりへの挑戦」
- ⑤御前山ビオトープの里山保全事業への参加
- ⑥『常陸大宮物語』の出版（主に茨城大学文芸部が担当）
- ⑦「広報 常陸大宮」のコラム「一緒にまちづくり」の執筆担当
- ⑧常陸大宮市関係者の茨苑祭への参加
- ⑨豊島区との交流事業の受け入れボランティア

⑩伝統文化保全活動「コウゾを育てて和紙を漉こう！」への学生参加

⑪アクションミーティングの開催

・アクションミーティングでは3組の学生グループによる研究発表と6組のポスター発表を行った。

⑫今後のまちづくりについて話し合う「ネットワーク大会」の開催

大洗町

①日本語教室の開講と住民・行政との交流バーベキューを実施した。

②大洗オープンウォーター大会へのボランティア参加

③大洗サーフライフセービング・クラブ報告会への参加

④大洗ライフスタイル研究会の開催

⑤大学院演習、国内教育実践演習の実施

(2) 講義『地域連携論（働く意義・学ぶ意味）』Ⅰ、Ⅱの開講

①学生 130 名が受講（Ⅰ 56 名、Ⅱ 74 名）

②公開シンポジウムの開催（学生約 200 名が参加）

③公開模擬面接の実施

④ⅠⅡともシンポジウム・模擬面接を含む各 15 回の講義を通じて、30 名程度の学 外講師および 10 名程度の教員が参加。なお、Ⅱは茨城県経営者協会の「ボランティア講座」。

⑤シンポと模擬面接は、人文学部と人文学部同窓会の主催、茨城県経営者協会の協力

(3) 地域史シンポジウムの開催

①「どのような世界史研究・世界史教育をめざすか」というテーマによる議論（142 名参加）

② 2007・2008 年度地域史シンポジウムの講演・報告を基に、高橋修編『実像の中世武

(4) 広報活動

①地域連携委員会のホームページの更新

②ホームページの活用促進

(5) 茨城大学文理・人文学部同窓会との連携事業

①講義「地域連携論」の開講協力

②「学生懸賞」論文の募集

(6) 常磐大学・常磐短期大学および茨城県立歴史館との連携

①茨城県歴史館学芸員による授業「茨城の歴史と風土」を開講

- * 「博物館で実物資料に基づいて」行う授業
- ②茨城県立歴史館公開講座への3コマの出講
 - * ①②は連携を前提に相互に無償で担当した
- ③常磐大学・常磐短期大学との連携授業
 - ・単位互換授業開始に向けた教務上の調整
 - ・VCS並びにSkypeによる遠隔授業体制の整備
 - ・Skypeによる遠隔授業「日本近現代史Ⅱ」を実施
- ④茨城県立歴史館と連携協定締結（2011年3月31日）

2011年度

(1) 地域連携協定を締結している自治体における活動

常陸大宮市

- ①市民大学講座の開講
 - ・「世界遺産の現在と未来」（3回シリーズ）をテーマにした秋期講座
 - ・「中国古典のことば」（3回シリーズ）をテーマにした春期講座
- ②農村集落活性化活動とその支援
 - ・豊島区との交流事業の受け入れボランティア
 - ・「塩田お米づくり体験コーナー」への参加都市住民が行う農作業のサポート
 - ・昨年度に引き続き耕作放棄地の住民との共同管理と交流促進
 - ・塩田地区待合集落における祭りのサポート
 - ・活動記録のホームページ開設
- ③「サスガ★カミスガ」、「アルベトレット食堂」への参加
 - ・「サスガ★カミスガ」主催による会場菅谷駅前歩行者天国で農産物等を販売
 - ・「アルベトレット食堂」（水戸市南町のイベント）に生産者として参加・出品
- ③常陸大宮市関係者の茨苑祭への参加
- ④「WACカフェ」オープンのサポート
- ⑤伝統文化保全活動「コウゾを育てて和紙を漉こう！」への学生参加
- ⑥今後のまちづくりについて話し合う「ネットワーク大会」の開催
- ⑦連携事業の内容を知らせる壁新聞「ひたち Oh！宮」の作成
- ⑧集中講義の開講・「つながりによる地域社会・地域経済の活性化の可能性」・16名
- ⑨豊島区との交流事業の受け入れボランティア
- ⑩アクションミーティングの開催・3つの学生グループによる研究発表と5組のポスター発表

大洗町

- ①公開講座：テーマ「世界のくらしと文化－アジア編」を開催
 - ②大洗町明神地区の空き家調査の実施と報告書の作成
 - ③大洗ライフスタイル研究会の開催
- (2) 講義『地域連携論（働く意義・学ぶ意味）』Ⅰ、Ⅱの開講
- ①学生 175 名が受講（Ⅰ 74 名、Ⅱ 101 名）
 - ②公開シンポジウムの開催（学生約 200 名が参加）
 - ③公開模擬面接の実施
 - ④ⅠⅡともシンポジウム・模擬面接を含む各 15 回の講義を通じて、30 名程度の学外講師および 10 名程度の教員が参加。なお、Ⅱは茨城県経営者協会の「ボランティア講座」。
 - ⑤シンポと模擬面接は、人文学部と人文学部同窓会の主催、茨城県経営者協会共催
- (3) 地域史シンポジウムの開催
- ①「古代常陸の原像－那賀郡の成立と台渡里官衙遺跡群」というテーマによる議論（194 名参加）
- (4) 広報活動
- ①地域連携委員会のホームページの更新
- (5) 茨城大学文理・人文学部同窓会との連携事業
- ①「学生懸賞」論文の募集
- (6) コンソーシアムの具体化に向けた取り組み
- ①常磐大学・常磐短期大学との連携協定締結（2011 年 9 月 27 日）
 - ②茨城県歴史館学芸員による授業「茨城の歴史と風土」を開講
 - ・学生 23 名の受講、「博物館で実物資料に基づいて」行う授業
 - ③茨城県立歴史館公開講座への 3 コマの出講
 - *②③は連携を前提に相互に無償で担当した
 - ④常磐大学・常磐短期大学との連携授業
 - ・単位互換授業の運営体制づくり
 - ・VCS 並びに Skype による遠隔授業体制の整備
 - ・Skype による遠隔授業「文化財情報学入門」を実施
 - ⑤組織の相互連携・他組織との連携に向けて
 - ・茨城県立歴史館－本学－常磐大学・常磐短期大学との三者協定の検討

・茨城キリスト教大学等、近隣の他組織との連携の可能性検討

⑥ 2010 - 2011 年度報告書 (A4 版約 110 ページ) の刊行

(7) 本学部における地域連携活動の外部評価への準備

(8) 模擬授業 (出前授業) 担当者選出の仕組みづくり

① 「模擬授業 (出前授業) への対応についての提案」を作成し、学部で了承された。

(9) 委員会活動以外の学部構成員による主な地域連携活動

① 2005 年に水戸商工会議所と協働して C's (シーズ) という組織を立ち上げ、今日まで活動を続けています。

齋藤 典生

② 水戸市グループホームかたくり、での傾聴ボランティア。

宮崎 章夫

③ 山形県新庄市の「大豆畑トラスト」にこの 6 年参加しています。

星 純子

④ 認定 NPO 法人いばらき NPO センター代表理事

齋藤 義則

⑤ 「茨城県北政策研究会主宰」

齋藤 義則

⑥ 認定 NPO 法人いばらき NPO センター理事

清山 玲

⑦ 大洗応援隊主宰

伊藤 哲司

⑧ 福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト (水戸拠点) での活動

原口 弥生

⑨ その他多数

4 人文学部地域連携委員会・自己点検評価について

(1) 地域連携の定義が曖昧

地域貢献・地域連携・地域共創の概念の明確化

→大学の「地域連携活動とは、地域課題の抜本的な改善を図るために、多様なステークホルダーと協力して、市民として対等な立場で教育・研究・地域連携を共創する活動である」

(2) 市民セクターとの連携が不十分である。

自治体の要請による活動や企業との連携活動は実施されているが、市民セクターとの連携活動が行われていない。

→ボランティアセンターの役割を果たすとともに、市民セクターとの共創活動を推進する。

(3) 地域社会のニーズを適確に把握し、地域連携活動に反映する仕組みができていない。

→人文学部市民共創教育研究センターの設置により地域社会のニーズをワンストップで把握し、共創活動に反映する。

(4) 地域連携活動が対象地域中心もしくは個別テーマ中心になっている。

→基本的に、テーマ別を実施する体制をつくる。

5 人文学部地域連携活動・外部評価委員の発言要旨

(1) 質問（要旨）

- ・「大洗空家調査」は自治体からの要請への対応か、または教員の研究活動か？
- ・大洗の「日本語学校」を受講者により組織を作って、継続してはどうか？
→内なる国際化への対応、外国人の受け入れ体制づくりが必要。
- ・茨城県南地域にはペルー人やフィリッピン人が多いので、ポルトガル語、タガログ語ができる人材を大学が招聘してはどうか？
- ・中国からの研修生の実態調査を実施して欲しい。

(2) 意見（要旨）

（横田能洋氏）

- ・地域連携活動に学生の参加を増やして欲しい。
- ・学生のインターンシップを希望する NPO に行けるように仲介して欲しい。
- ・市民団体の相談を受け付ける組織をつくり、連携を深めて欲しい。
- ・将来の NPO の担い手を育成するためのカリキュラムを作って欲しい。

（浅野幸夫氏）

- ・平成 20 年に茨城県と連携協定を結んだが、県との連携活動がない。人文学部は少ない。
人文学部は市町村との連携が多い。
- ・県の審議会委員は、工学部、農学部、教育学部が多く、人文学部は少ない。
- ・県職員による講義「地域課題特論 A」（井上教員担当）を今年度後期から開講する。学生に県内各地を知ってもらいたので良い企画である。
- ・地域連携のワンストップを目指す社会連携センターの新設は良いことである。
- ・筑波大とは、10 年間地域連携について意見交換会を行っている。茨城大学でもこのような会議の設置を検討して欲しい。
- ・県だけではできない政策があるので、行政側の提案に対応する体制を作って欲しい。
- ・学部間の連携を強化して欲しい。
- ・新しい課題が出てきたときには、協力して欲しい。

（出井滋信氏）

- ・大学の環境変化が起こっており、大学本部と人文学部はそれに対応しているが、より地域に根ざした大学のあり方を検討して、茨城大学の存在意義を高めて欲しい。
- ・組織対応のベースは「人」なので、地域連携活動についての教員の意識改革を促進する必要がある。
- ・社会貢献マインドを教員が持ちそれを学生に伝えることが大切である。
- ・大学が地域の担い手、起業家を育成する指導力を持つことが大切である。

- ・学生の県内での就職率を高める工夫をして欲しい。
- ・学生に、社会貢献をしながら地域で生きるマインドを育てて欲しい。
- ・父兄の意識を変える工夫も必要である。

(松村直道氏)

- ・市民セクターとの連携活動を進めるには、大学が場の提供を行うことがよいのではないか。
- ・地域社会の問題で行政が対応できていないものについては、単にニーズを把握するというレベルではなく、課題解決を目指して活動を行っていくことが必要である。
- ・地域連携活動の対象とテーマのどちらかを優先するとしたら、対象地域を中心とすべきではないか。
- ・大学全体の地域総合研究所の廃止と人文学部内に市民共創教育研究センターを新設することは、学部が大学より「下位」にみられる恐れはないか。

(3) 特定テーマについての意見交換（要旨）

テーマ：茨城県においてNPO活動に対する理解と支援を強化する方策は何か。

(横田能洋氏)

- ・NPOと関係をつくる「人」と「時間」を確保することが大切である。特に、NPOと市民、企業、行政をつなぐコーディネーターの存在が大切である。
- ・教員がコーディネーターの役割を果たした場合には、学内で評価される仕組みがあることが大切である。
- ・行政は客観的な情報がないと動けないので、記者、NPO、大学教員が地域課題を先取りし、円卓会議に大学組織として関わるスタンスを持つことが大切である。

(浅野幸夫氏)

- ・展望がないと行政は動きにくくなっている。まず、自由度が高いNPOや大学組織が動くことが大切である。
- ・円卓会議はものによっては動いているものがある。大学が途中から参加して、枠組みを変えようとするところがある。

(横田能洋氏)

- ・国でも同じことが起こっている。

(浅野幸夫氏)

- ・NPOを立ち上げるまでが県の役割で、後は自主活動にゆだねている。

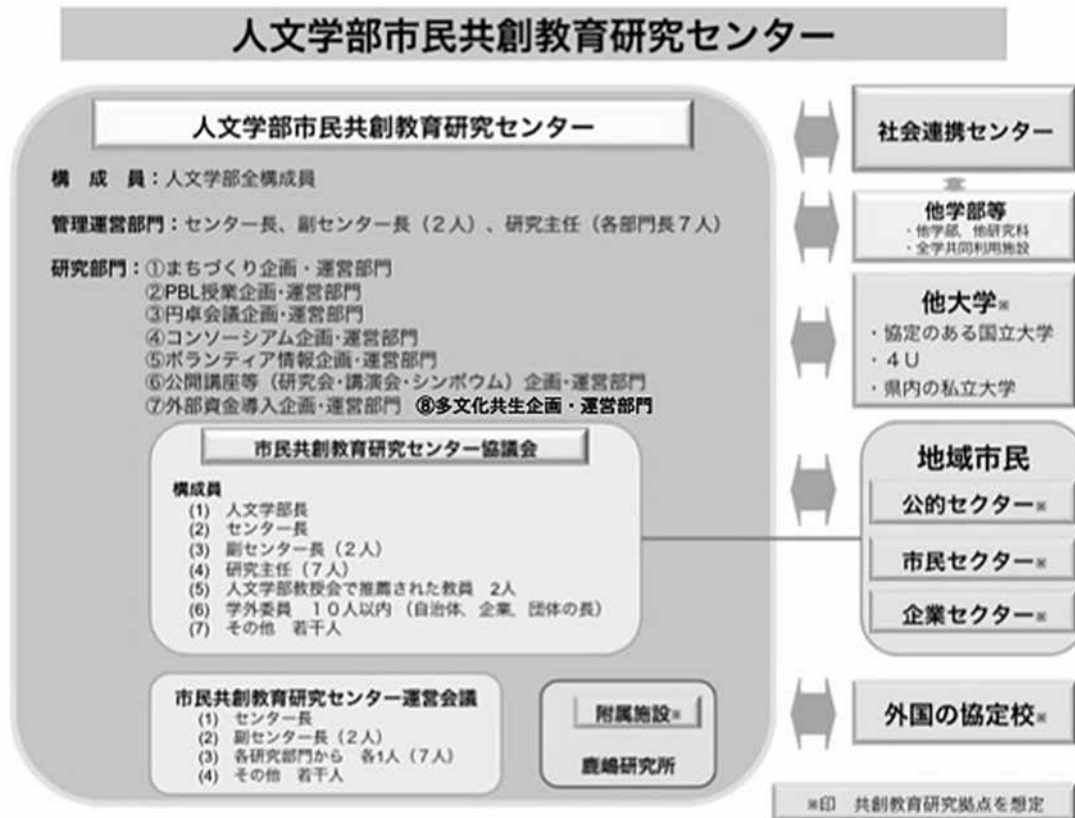
(横田能洋氏)

- ・NPOが県に提案する機会が少ない。NPOを育てる役割を県が持って欲しい。
- ・若い人たちの将来希望のある暮らしをどうやって実現していくかという、地域の問題がある。
- ・若い人たちがキャリアデザインして地域で活動していけるように、NPO、大学、企業、行政が支援していく必要がある。

6 外部点検評価をふまえて

人文学部地域連携委員会の外部評価をふまえて、平成 25 年 10 月 1 日に「人文学部市民共創教育研究センター」を設置した。設置の趣旨は、大学の社会連携センターと連携しつつ、人文学部が地域社会における市民セクター・企業セクター・公共セクターとそれぞれ「地域市民」の立場で対等に協働し、「教育」と「研究」および「地域課題」の改善に学生と教員が一体となって組織的に対応することで、地域社会における価値を「共創」することを目標にしている。

■人文学部市民共創教育研究センターの概要



■人文学部市民共創教育研究センターの業務概要

管理部門

【業務】

- ① センター運営委員会の開催
- ② センター運営予算の管理
- ③ 運用部門の統括管理

【担当】

センター長、副センター長、各研究主任

運用部門

1) まちづくり企画・運営部門

【業務】

- ① 自治体円卓会議参加自治体（茨城町・大洗町・鹿嶋市・高萩市・常陸太田市・常陸大宮市・水戸市＋茨城県＋国の機関）との共創まちづくりを推進する。
- ② 今後、地域連携協定締結予定・自治体円卓会議参加予定メンバーとの共創まちづくりを推進する。
- ③ COC 事業を企画・運営する。
- ④ 自治体・企業・NPO 等との地域連携協定締結を推進する。

※協定締結予定自治体（順不同・基本的にメンバーは増やさない。）

北茨城市、大子町、日立市、那珂市、笠間市、城里町、ひたちなか市、
土浦市、つくば市、筑西市

※協定締結を行う中小企業

協定自治体からの推薦に基づき協定を締結

2) 地域共創授業企画・運営部門

【業務】

- ① プロジェクト実習、地域プロジェクト、社会連携授業（地域連携論・協同組合論・国際協力論など）、教員個人の授業（常陸大宮市・鹿嶋市・大洗町など）などの授業の運営と学部専門授業としての地域共創（PBL）授業化を検討する。
- ② 教育改革推進委員会と連携して、学部専門授業の地域共創授業（PBL）化を促進する。
- ③ 行政・産業団体・NPO 等と連携して、効果的な地域共創（PBL）授業の展開に向けた諸施策を検討・企画・実施・運営する。

3) 円卓会議企画・運営部門

【業務】

- ① 自治体円卓会議（茨城町・大洗町・鹿嶋市・高萩市・常陸太田市・常陸大宮市・水戸市＋茨城県＋国の機関）を開催し、共通の行政課題についての現状認識の共有化と政策提言を行う。
- ② 多様なステークホルダーと共創する地域円卓会議を企画・実施・運営する。
- ③ 海外自治体との円卓会議の開催を検討する。

4) コンソーシアム企画・運営部門

【業務】

- ① 茨城県内大学および組織・団体等とのコンソーシアムを推進する。
- ② 南東北、北関東地域にある大学とのコンソーシアムを推進し、共通の地域課題をテーマにした共同授業と共同研究を推進する。
- ③ 海外の協定締結大学とのコンソーシアムを推進する。

【担当】

研究主任： 神田大吾

グループ： 岡崎正男 糟谷政和 金光男

5) ボランティア情報企画・運営部門

【業務】

- ① 茨城県内 NPO・ボランティア組織などからのボランティア募集情報を学生・教職員に提供する。
- ② 大規模災害時などのボランティア派遣を企画し、実施・運営する。
- ③ NPO 活動組織と共創して、市民活動組織のネットワーク形成を促進する。

6) 公開講座等企画・運営部門

【業務】

- ① 地域史・愛と傷つきやすさ・東日本大震災関連シンポジウムなど既存のシンポジウム・講演会・研究会の企画・運営を行う。
- ② 学部全体で取り組む研究課題（①東海村原子力、②中山間地域振興、③東・東南アジアの平和創出など）を中心にして、月1回の定例研究会を開催する。
- ③ 学部共通研究の成果や地域課題に応じたシンポジウム（県内・国内・世界）や公開講座等を企画・実施する。

7) 外部資金導入企画・運営部門

【業務】

- ① 学部共通研究テーマを設定し、科研費などの大型研究費補助金を獲得する。
- ② 自治体から研究費助成金を獲得する。
- ③ NPO と共創して、市民活動を支援する資金的・人的・研究的支援システムの構築を検討する。

8) 多文化共生企画・運営部門

【業務】

- ① 地域社会における在日外国人の生活支援活動を企画・運営する。
- ② 在日日本人と在日外国人との交流を促進する機会を企画・運営する。
- ③ 自治体の国際交流を支援する。

9) ホームページ更新

- ① 共創センターの HP を学部 HP 内に設置する。
- ② 各部門の情報を掲載し、随時更新する。
- ③ 企画・広報委員会と連携して、最新ニュースは学部 HP のトップページに掲載する。

発 行：茨城大学人文学部

編 集：茨城大学人文学部地域連携委員会

発行日：2014年3月